

図1

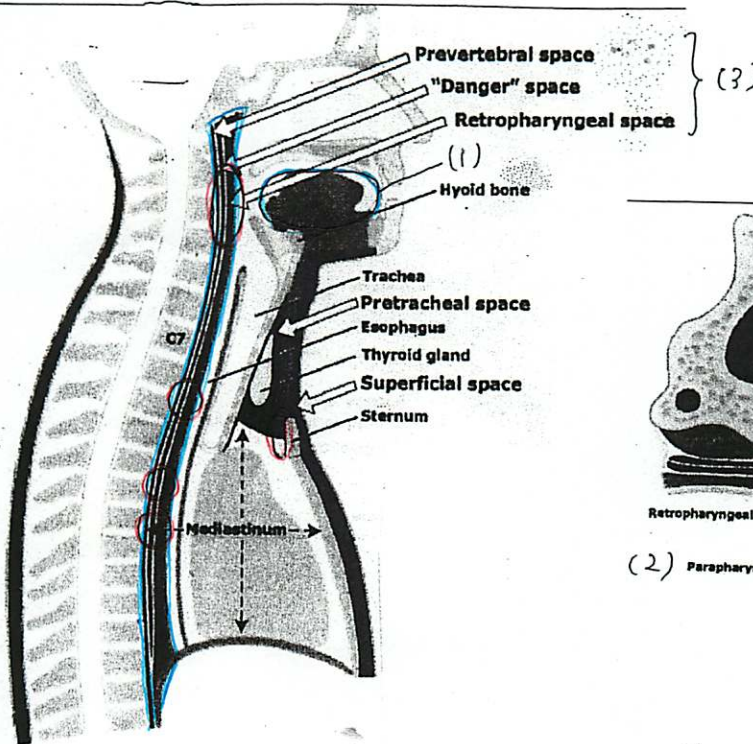
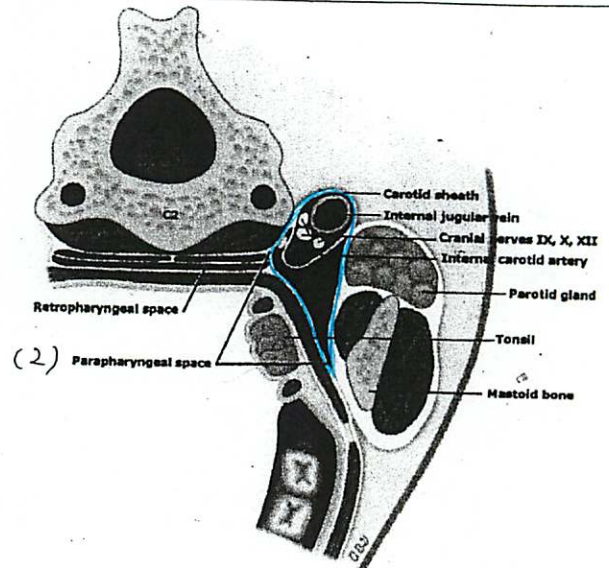


図2



1. 本症例について(図1)

病態としては、菌血症の存在、後咽頭や縦隔、右胸鎖関節など様々な部位に膿瘍が見られること、またそれらの膿瘍に連続性があることなどから、菌血症から波及した深頸部感染症と考えられる。

2. 深頸部感染症について

(1) 下顎領域感染症 (submandibular space infections)

口腔底から舌骨の空間の感染症(図1)。菌性感染症から波及することが多い。

Cf. Ludwig's angina: 下顎領域の急速に進行する蜂窩織炎のこと。急速な上気道閉塞をきたしうる。

(2) 咽頭外側部感染症 (infection of the lateral pharyngeal space)

頸動脈鞘と呼ばれる空間に生じる感染症である(図2)。主な空間すべてと交通しているため、感染の進展により縦隔や後咽頭部に及ぶこともある。また、咀嚼筋とも接しているため、開口障害が起こることもある。

Cf. Lemierre's syndrome: 咽頭炎が一段落した後、細菌が頸動脈鞘に広がり感染性血栓性静脈炎を生じる。

(3) 咽頭後部感染症、椎体前部感染症、

解剖学的には、咽頭後部・食道と椎体に挟まれる空間の感染症である(図1)。頭蓋骨基部から横隔膜までつながっており、咽頭部の感染が一気に縦隔に広がることもあり、Danger space と呼ばれる。

3. まとめ

本症例は、菌血症から波及した深頸部感染症と考えられ、その中でも椎体前部感染症に該当する。

<参考文献>

レジデントのための感染症診療マニュアル 第2版 青木 眞 医学書院、

Deep neck infections (Up To Date)、画像解剖アトラス 平松 慶博 小川 敬寿 栄光堂、

深頸部感染症(2008/7/26 IDATEN サマーセミナー レジユメ) 具 芳明、